



みなさんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

盲導犬くらぶ

公益財団法人 日本盲導犬協会

発行人 井上 幸彦

223-0056 横浜市港北区

新吉田町6001-9

TEL.045-590-1595

FAX.045-590-1599

<https://www.moudouken.net/>

Memory

**盲導犬との歩みが
どこまでも続くよう
命を紡いでいきます**

協会で誕生したバビーたちは、日々すくすく成長しています。

今後も海外との連携を強化するなどして、将来にわたり安定した盲導犬の提供を目指します(11ページに関連記事を掲載)

視覚障害者の支援のために ひたむきに一筋に歩みます

2021年にSDGsの理念に沿って打ち出した中長期計画は、策定から3年目を迎えました。コロナ禍において協会は、さまざまな工夫をしながら事業を継続し、2022年度は36ユニットの盲導犬を送り出すことができました。今後もwithコロナの時代が続きますが、この3年間で学び、得たことを教訓として、事業を更に発展させていかねばなりません。

3月に開催されたワールド・ベースボール・クラシックでは、侍ジャパンの優勝に日本中が湧きました。選手たちの心をしっかりと捉え、チーム全体を見渡し差配した栗山英樹監督も素晴らしかったですが、ベテラン選手が若手に対して、技術だけでなく勝負に向かう心構えまで熱心に教える姿が印象的でした。出場機会のない選手たち

も、やるべきことを地道にやり抜き、さらに大

谷翔平という偉大な選手の存在もあって、良い結果に結びついたと感じます。こうしたチームの在り方には、学ぶべき教訓がたくさんあります。

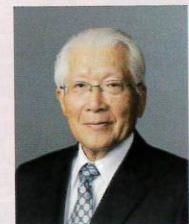
詩人の坂村真民の作品に『一すじに』という詩があります。

「一すじに 生きたる人の尊さ

一すじに 歩みたる人の美しさ

われもまた 一すじに生きん 一すじに歩まん」

侍ジャパンの選手たちが野球一筋に生き、歩む姿は、人々に力と感動を与えました。協会職員も、盲導犬育成はじめ視覚障害者支援へ向け一筋に生き、歩んでゆかねばなりません。その思いを胸に、本年度も役職員一同事業に邁進いたします。



公益財団法人
日本盲導犬協会
理事長

井上幸彦

日本盲導犬協会の歩み 2023.1.1 ~ 3.31

- 1月13日 第10回常任理事会
- 2月15日 第11回常任理事会
- 2月24日 神奈川訓練センター「盲導犬新ユニット出発式」
- 3月3日 島根あさひ訓練センター「盲導犬新ユニット出発式」
- 3月7日 第12回常任理事会
- 3月24日 第4回理事会



↑2月12日 マルエツ板橋南町店で「盲導犬もっと知ってキャンペーン」開催。募金活動のほか、従業員向けに視覚障害者への接客体験も実施



→3月6日 東北東急会主催「第30回東急スプリングコンサート」で訓練士と訓練犬がコンサートを観賞。募金活動も実施しました



←神奈川訓練センターで「視覚障害リハビリテーション体験会」を1~3月に3回開催。参加者は白杖歩行や盲導犬歩行を体験しました

●各センター活動報告(1月~3月)

(2023年3月31日現在)

	神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・ 視覚障害 サポート	共同訓練	1回	0回	2回
	パピーレクチャー	23回	11回	13回
	パピーウォーキング修了式	2回	1回	1回
	ユザーフォローアップ	41回	35回	37回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	1回	2回	3回
	各種オンラインセミナー	4回		
リハビリ テーション	短期リハビリテーション	0回	2回	0回
	その他リハビリテーション	169回(134人)	186回(215人)	81回(85人)
普及推進活動	受け入れセミナー	8回	15回	18回
	小・中学生向け実演	10回	22回	11回
	一般向け実演・贈呈式・募金活動等	18回	21回	25回

メディア掲載件数

テレビ・ラジオ	28回
新聞	38回
WEB	155回
その他(雑誌など)	7回

主な放送・ 掲載

- 1月26日 エキサイトニュース他WEB26件 協会配信リリース「全国一斉盲導犬教室」より関連記事を掲載
- 2月1日~4月30日 エフエム岩手「盲導犬育成キャンペーン」として番組でボランティア募集や協会への寄付など呼びかける
- 2月1日 東京新聞他新聞1紙WEB2件 補助犬のトイレ事情や受け入れについて特集。山口専務理事のコメントを掲載
- 2月9日~20日 東愛知新聞他WEB2件 愛知県豊橋市でユーザーが市長訪問し、盲導犬への理解促進を訴えた様子を紹介
- 2月11日 TBSラジオ「蓮見孝之・まとめて！土曜日」に職員2人が出演。補助犬法成立から20年経った現在の課題を解説
- 2月26日 テレビ朝日「二十歳の挑戦」に訓練士が出演。訓練に励む姿や仕事にかける思いなどを紹介
- 3月6日・9日 中国新聞他1紙WEB1件 島根あさひ訓練センター「盲導犬新ユニット出発式」の様子やユーザーの声を紹介
- 3月16日 読売新聞他WEB1件 盲導犬の歴史や育成頭数、基本的な仕事、受け入れ拒否の課題などを特集記事として掲載
- 3月22日~24日 読売新聞他WEB84件 協会配信リリース「盲導犬ユーザー受け入れ拒否実態報告」より関連記事を掲載

※協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。

TOPICS!

主なできごとの中から
ピックアップ

盲導犬ユーザーと支援者が一堂に会して 「盲導犬新ユニット出発式」開催

2021

年度に新たな盲導犬と歩み始めたユーザーたち。その門出を祝う盲導犬新ユニット出発式が、昨年に続き2か所で開催されました。普段は盲導犬ユーザーと会う機会が少ない支援者のみなさんが、直接ユーザーと顔を合わせて話を聞くことができる貴重な場にもなっています。

2月24日に横浜市で開催された神奈川訓練センターの出発式には、対象ユーザー16人中10人が、また3月3日に広島市内で行われた島根あさひ訓練センターの出発式にはユーザー5人が、それぞれ参加しました。支援者らが見守る中、ユーザーからは盲導犬との暮らしぶりや生活の変化、今後の夢などが語されました。

ユーザーは「朝4時の散歩で家族に付き添いは頼めないが、



↑神奈川訓練センター出発式には72人が参加。10頭の盲導犬が整然と並ぶ姿に注目が集まりました(会場:新横浜グレイスホテル)

↓島根あさひ訓練センター出発式に92人の支援者らが参加して全員集合!記念撮影では笑顔が満開に(会場:ホテルグランヴィア広島)



盲導犬なら喜んで付き合ってくれる」「人との関わりが増え、盲導犬が出会いのプレゼントをくれる」と生活の変化を語ります。著名な歌人の一句をまねて「愛犬と散歩をすれば 人が木が光が話かけてくるなり」とあふれる喜びを表現するユーザーも。

支援者へ向けて「小さくてもできることに全力投球して輝いて生きる、その姿を見せることが自分なりの感謝です」とコメントしたユーザーもいて、「こちらが力をもらった」と涙を拭う支援者もいました。

ユーザーと支援者のみなさんの笑顔を力にして、職員一同、今後も盲導犬育成に邁進していきます。

式典の様子は協会公式YouTubeチャンネルでご覧になれます。

こちらから



盲導犬ユーザーの受け入れ実態調査 ユーザーが感じる障壁はこんなところにも

協

会は、障害者差別解消法が施行された2016年から、店舗や医療機関などの受け入れ拒否の実態調査を行っています。今年はユーザー221人を対象に聞き取り調査を実施。その結果、45%に当たる100人が、昨年1年間のうちに盲導犬同伴を理由とした受け入れ拒否の経験があると回答。コロナ禍の前々回は41%、前回は35%と減少傾向でしたが、3年ぶりに増加に転じました。

また、受け入れ拒否以外にも、視覚障害者の活動を阻む壁がさまざまな場面に存在することも分かりました。タッチパ

ネル方式だと操作や注文ができない、路上駐車があって歩きづらい、などです。

身体障害者補助犬法の施行から20年。多様性を認め合うことが重要視される昨今、受け入れ拒否を無くすためにも、法律の周知と視覚障害者への理解促進が急務となってきています。

実態調査報告の詳細は協会ホームページでご覧になれます。

こちらから



視覚障害者が暮らしやすい街を作りたい！
行政との連携強化に努めています



会では、2021年からSDGs達成期限である2030年までを対象とした中長期計画を定めています。持続可能な盲導犬の貸与と、盲導犬ユーザーが過ごしやすい社会づくりを実現するのが目的です。その一環として、視覚障害者に必要な情報が届いていない現状を改善するため、地域の相談窓口である全国2,000自治体に盲導犬関連資料を毎年配布しているほか、下記のような取り組みを行っています。

仙台訓練センターでは、昨年度「盲導犬ユーザー受け入れ事例検討会」を2回開催しました。宮城県の協力を得て、補助犬に関する県内各自治体の相談担当

→2月7日、盲導犬ユーザーと協会職員が豊橋市の浅井由崇市長(右)を訪問、「盲導犬と一緒に暮らしがやすい街にしたい」と言葉をもらいました



職員を対象に、宿泊施設での拒否事例を題材としてケーススタディを行ったものです。4自治体8人が参加して合理的配慮について意見を出し合いました。

自治体の首長訪問も積極的に行ってています。2月には当協会のユーザーが愛知県豊橋市の市長を初めて表敬訪問し(写真)、盲導犬への理解を訴えました。近隣の学校にも出向いて、地域に暮らす盲導犬ユーザーの存在を子供たちに知っ

てもらったり、街で出会った時の対応などを学んでもらう機会としました。

また、昨年度は全国の行政職員や相談事業に携わるみなさまを対象に「視覚障害者と盲導犬情報セミナー」を3回開催しました。盲導犬や視覚障害を正しく理解して、窓口対応に役立てもらうのが目的です。オンライン開催で19団体が参加し、オンデマンド講習にも多くの参加がありました。今年度も6、7、8月に1回ずつ開催予定です（詳細は随時協会ホームページに掲載予定）。

セブン&アイ・ホールディングス研修会で講演
視覚障害への理解促進とサービス向上へ

2023

2023 年2月10、16日両日、株式会社セブン＆アイ・ホールディングス（以下、セブン＆アイ・HD）主催でグループ会社社員向けに実施された「第1回障害者職業生活相談員フォローアップ研修」に、協会職員と盲導犬ユーザーが講師として参加しました。グループ各事業会社で障害のある従業員の支援を行う相談員のみなさんが対象で、オンラインも含めて延べ95人の参加がありました。

小売店や百貨店等を傘下に持つセブン＆アイ・HDは、従業員として働く障害者をはじめ、店舗を訪れる視覚障害者に対しても正しい理解とスムーズな対応ができるよう、日頃から研修を重ねています。

今回の研修では、協会職員が視覚障害の特性に触れながら実際の対応のポイントを説明したほか、一例として、盲導犬ユーザーから寄せられた買い物での困りごとを紹介。店頭での場面を例に、手引きでの誘導や商品説明を行うなど、視覚障害者とのコミュニケーションを実演しました。

会場からは「洋服の色は、どう説明すると分かりやすいか」「弁当の中身はどこまで説明すると良いか」など質問が相次ぎ、視覚障害を理解し、接客と職場の環境づくりに役立てようという社員らの想いが際立つ研修となりました。

誰もが暮らしやすい社会の実現を目指して、協会は今後もこうした講演を積極的に行っていきます。



↑東京の新宿区四谷にあるセブン＆アイ・HD本社で社員研修。視覚障害のある人へどのように説明すると伝わりやすいか、洋服や弁当を題材に声かけを実践

日本屈指の養鯉場の看板犬に! テイラーとの暮らしは 毎日、幸せなことばかり

盲導犬育成を支える
ボランティア LIFE

(C) 島根あさひ訓練センター
キャリアチェンジ犬飼育ボランティア • 面迫さん一家 • (広島県呉市)



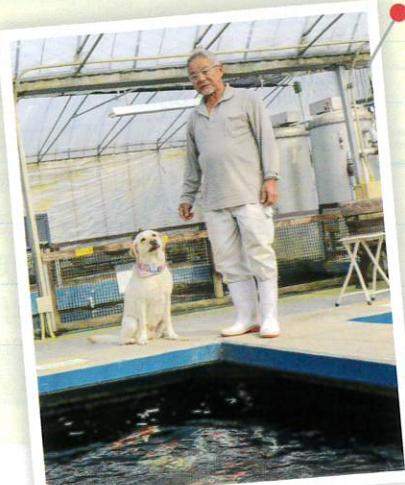
テイラーを中心にして、現在は先住犬のなつちゃんと猫の二子と一緒に暮らしています。テイラーのお散歩は真早さん、毎晩の歯磨きは隆さんの日課です

犬 好きなこともあります。商業施設で行われていた街頭募金を通して協会を支援していた面迫隆さんと真早美さん夫妻。募金をきっかけに島根あさひ訓練センターを見学した際、引退犬やキャリアチェンジ犬(以下、CC犬)がたくさんいることを知り、その場でボランティアの申し込みをしました。2017年8月から、CC犬のテイラーと暮らしています。

待 ちに待ったテイラーとの初対面の日。「面迫さんちのテイラーですよ」と言われ、ドアの向こうからトコトコと歩いて登場してきたテイラーの姿は「一生忘れられない光景」という真早美さん。リードを受け取ったその瞬間から嫌がることもなく車に乗り、面迫家へ。「あまりに良い子で、賢くて、驚くばかりでした」

先 住犬であるヨークシャー・テリアのなつちゃんがテイラーを拒むことがあります。当初は仲を取り持つのに苦労したと振り返ります。「一緒に散歩をさせたら、仲間だと認められるようになるかも」と協会職員から提

↓面迫家に来たばかりの頃のテイラーは、養鯉場の池に落ちてしまったことも。そんなドジっ娘な一面もまた「かわいい」と、面迫さん夫婦は笑顔で語ります



案され、実践。今ではとても仲が良く、「17歳になり足元がおぼつかなくなつたなつちゃんのことを、テイラーがやさしく寄り添い、かばいながら歩いてくれるんです。テイラーのやさしさを見習わないといけないね、なんて夫婦で語り合っています」

家 でのんびり過ごすことが好きだというテイラーは、隆さんが営む養鯉場の看板犬になりました。訪問客が来ると挨拶に行き、鯉を飼育している池などへ同行することもあるのだと。

年 に一度のお楽しみは、テイラーが子犬時代を過ごしたパピーウォーカーの上廣さん一家との誕生会です。上廣さんは協会主催の街頭募金活動にボランティアとして参

夫婦の結婚記念日でもあります。命的なものを感じました。年2月の誕生会には、かつてP.W.上廣しおりさん(左)も初参加しました

加した際に出会い、交流を深めてきました。テイラーが生まれた2月20日には毎年欠かさず上廣さんが面迫さん宅を訪れ、お祝いしています。「上廣さんを見るテイラーの目はやさしく、常に笑顔。上廣さんが帰るときには一緒に車に乗って帰ろうとし、車が見えなくなるまで見送っているんです。その姿にちょっと妬けますが、とてもうれしく思います」

テ イラーのいない生活は、想像すらできないという面迫さん夫妻。真早美さんが参加している廃校に花を植えるというボランティア活動に、テイラーも参加するようになります。なんと助参会員として認定。ボランティアの面々と地域新聞に掲載されたこともあります。こうして今のまま穏やかな生活を続け、共に元気で長生きをする、それが面迫さん夫妻の今後の目標です。

〔テ〕 イラーのようなCC犬や引退犬が愛情にあふれた“犬生”を全うできることを望みます。一頭でも多くの犬が、幸せになれますように」

スタートライン
Start Line

2023年
2月までの
共同訓練
卒業生

ユーザー名・在住地(盲導犬歴)
盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種
①共同訓練期間
②パピーウォーカー名
●犬種記号
LR : ラブラドール・レトリーバー
GR : ゴールデン・レトリーバー

仙台訓練センター

エナからデイズへつないだバトン
見守ってくれるみなさんに感謝



鈴木 祐花さん

福島市(2頭目)

デイズ(♂)LR

1 2022.12.10 ~ 1

②酒井 沙織さん

鈴 木さんは10歳頃から視力が著しく低下し、中学3年生の頃からは白杖を使い、電車に乗って一人で通学をしていました。実家で犬を飼っていたこともあり、幼少期から犬が好きで「将来は盲導犬を持ちたい」と望んでいました。

初めて盲導犬歩行の体験をしたのは中学2年生。協会職員が犬と一緒に学校を訪問しました。「障害物を上手に避けながら校内をとても早いスピードで歩くことができて、盲導犬ってすごいなと感じました」。自立したら盲導犬を持つと心に決め、社会人になって再び協会の歩行体験などに参加。その後、貸与の申し込みをしました。

「盲導犬歩行は役割を分担できる点で白杖歩行と大きく違いました。白杖では電柱や縁石など目印を探すことを繰り返し、“目的地に着く”ことだけ

が目標でした。でも、盲導犬は角や段差などを教えてくれるので気持ちに余裕ができ、気温の変化や鳥の声を感じながら歩くことができます。犬と会話をしながら“目的地までの過程を楽しむ”ようになり、歩行がとても楽しくなりました」

1頭目のエナは、加齢に伴う体力の低下などを考え、悩んだ末に早期引退させることを決意します。しかし、引退が近づくにつれ、寂しくて涙する日々。2頭目デイズとの訓練が始まあっても、ふとした瞬間にエナを思い出してしまい、気持ちが追いついていなかったと振り返ります。そんなある日、エナとデイズが一緒に鈴木さんの夢に現れたのです。「デイズにバトンをつないだのだから、あなたも頑張りなさいよ、とエナに言われているようで。新たな日々を踏み出そうと奮起しました」



↑援助依頼*では、周囲の助けがうまく得られず、心が折れそうに。「とても大変だったけれど、一人だとくじけてしまうことも、デイズと一緒になら『迷っちゃったね』とおしゃべりしながら失敗を楽しんで乗り越えられる、盲導犬の魅力ってこれだ！と感じました」

デイズは甘えん坊でまじめ。一生懸命ですが不安が強く、当初は練習士がいなくなるとクンクンと鳴いてしまうことも。緊張から歩くスピードが速くなってしまうことがあり、速度管理に苦労しました。「まずは、私といたら安心だよ、と伝えられるように、部屋で抱っこしたり足の間に座らせたりし



↑家の中でもずっと一緒。携帯電話を触っていると鼻でツンツン、横になると隣で寝転ぶ、甘えん坊なデイズです

て、向き合う時間をたくさんつくりました」

訓練期間中は、協会主催のパピーウオーカー向けレクチャーにも参加。「ボランティアのみなさんが愛情と責任を持ってパピーを育ててくれている。デイズもエナもたくさんの愛情を受けて育ち、今があるのだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。私たちの生活をずっと見守ってくれていると感じ、頑張ろうと思いました。また、現在は引退犬飼育ボランティア宅で暮らすエナが、寝るときは相変わらず座布団を占領してエナらしく過ごしていることを知り、「ボランティアのみなさんがいるからこそ、安心して2頭目、3頭目と踏み出せる。本当にありがとうございます」と感謝も。

「限りある時間だからこそ目いっぱい楽しんで、引退を迎えるその日まで、デイズが幸せな犬生を送れるよう過ごしていきたい」と胸を弾ませます。

↓職場でのデイズは鈴木さんの足や椅子を枕にして寝るのが好み。リラックスして和やかに過ごすデイズはいつも話題の中心で、同僚とのコミュニケーションも増えました



オリーブは上手に左へ寄って歩こうしてくれるので、ついついハーネスを引っ張ってしまう私。共同訓練ではこの自分の歩きの癖に苦労しました。現在もオリーブの動きを邪魔しないよう意識して歩いています。職場では同僚のみんなに見守られながら、いつも気持ち良さそうに寝ているオリーブ。今年は勤務先で創立記念の式典が開催される予定です。普段はなかなか会えない職場の仲間にオリーブを紹介できるのが樂しみです。

藤山 美枝子さん

宮城県宮城郡(2頭目)

パー・チエ(♂)LR

①2022.12.10～12.22

②島村 一秋さん



船迫 ひかるさん

福島県相馬市(2頭目)

オリーブ(♀)LR

①2022.12.12～12.23

②江連 悠子さん

パー・チエはとにかく甘えん坊の男の子。いつも私の足の間に入ってきてはおなかをゴロンと見せてきます。しかし、歩きはとてもクール。淡々と歩く姿とのギャップに驚かされます。我が家には柴犬の男の子がいるので仲良くなれるか心配でしたが、お互いすぐに心を開いてくれて、今ではいつも横に並んで日向ぼっこをしています。1頭目の先輩犬ハッピーが残してくれたさまざまな出会いを大切にしながら、パー・チエとも歩んでいきたいです。

富士ハーネス

慎重なファンに対して、大胆な私。共同訓練ではお互いに助け合いながら歩けて楽しかったことが印象に残っています。晴れの日は自宅の窓際で日向ぼっこ。雨の日はテンションが低くなり歩く速度が遅くなることのあるファンに、私が声をかけてフォローするなど、少しずつ彼女らしさが分かってきました。最近は子供たちの授業参観や卒業式など

に、ファンも家族の一員として参加しています。一緒に旅行をすること、その計画を立てることも樂しみです。



河部 千鶴さん

愛知県春日井市(1頭目)

ファン(♀)LR

①2022.12.12～2023.1.11

②岸田 麻里子さん



無理なく、続けられる

ナチュラリープラス®

The Global Healthcare Company

私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。



神奈川訓練センター

齋藤 静江さん

埼玉県鴻巣市
(6頭目)

ナギ(♀)LR

①2022.11.21～12.2
②川喜田 一広さん

初対面の時は、あまり近寄ってくることのなかったナギ。我が家に来て3か月ですが、今では甘えたり、はしゃいだり、やんちゃぶりを發揮しています。とてもメリハリのある子で、ハーネスを着けて一步外に出ると犬が変わったようすっかりお仕事モードに。「ナギ、ありがとう、グッドだね」と思わず声がでます。ナギと出会って、コロナ禍で外出が思うようにできなかった3年間を取り戻したい!旅行に、コンサートに…と夢が広がります。



金子 聰さん

東京都板橋区
(3頭目)

ナイア(♂)LR

①2023.1.9～1.25
②丸橋 剛さん



1月9日、待望の3代目とご対面。その名もナイア、ハワイ語でイルカのことだと。このところヨットやサーフィンなど海ばかり遊んでいる私にぴったりなアロハな犬。見た目はマッチョなのにおっとりしていて甘えん坊、ギャップがあるところがカワイイです!ハッピーリタイアまでの7年半、ひとつでも多くのビーチに繰り出そうと決めました。どこかの海でお預けのアロハシャツを着たユニットを見かけたら、どうぞご声援ください。

星 博之さん

群馬県高崎市
(1頭目)

レニー(♂)GR

①2022.11.21～12.16
②小田切 清人さん



待ちに待った盲導犬との生活。しかし、当初は想像以上に人好きなレニーが外出先で興奮してしまい、うまく鎮めることができずに戸惑いました。しばらくして、都内へのお出かけが初めて大成功。それからは神戸や京都などいろいろな場所へレニーと一緒に行きました。先日は温泉旅行も満喫。外出を重ねるたびにレニーとの歯車がかみ合って、阿吽の呼吸が生まれているのを感じています。新たに始まったレニーとの日々を楽しみながら歩んでいきます。

イーグルは遊びが大好き。一緒に遊んでいると飛び跳ねて全身で喜んでくれるので、私も自然と笑顔になります。デビューしてすぐに初めての場所へ出かけましたが、イーグルは動じずに落ち着いていてびっくり。日々の生活においてもスーパーの店内などで人とすれ違っても冷静にしっかりと歩行してくれるので、安心できます。30年以上にわたり続けている小中学校での講演活動へ、これから共に参加するのも楽しみです。



堤 江美子さん 大分市(5頭目)

イーグル(♂)LR

①2023.2.1～2.16 ②安田 耕市さん

心がふれあう

Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介します

子供たちの「人に寄り添う心」を育てる ドラッグストアモリ全350店舗に募金箱設置



↑2月、日本盲導犬協会への寄付金贈呈式を福岡本社で。左から協会職員2人、ドラッグストアモリの森会長、店舗スタッフ代表のみなさん。「今後も協力させていただきます!」

福岡県朝倉市に本社を置く株式会社ドラッグストアモリは、九州四国を中心に350店舗を展開する企業です。1983年に漢方相談専門の森薬局として創業。以来、「お客様との会話による健康相談こそ最大の地域貢献」との信念のもと、地域のみなさんに寄り添い続け、2016年に盲導犬育成への協力をスタートさせました。

- 店頭での接客が
● 支援のきっかけに

盲導犬育成への支援が始まったきっかけは、店舗での接客場面にあったといいます。「目の不自由な方へのお買い物サポートはなかなか難しく、何かお手伝いできないかと模索していました。そんな中、盲導犬の存在に出会ったのです。同時に、盲導犬の育成には多額の費用がかかることも知りました。盲導犬育成を支援することが、視覚障害がある人の買い物を助けることにつながると

考えた同社は、2016年に店頭募金を始めました。現在では全店舗に募金箱が置かれています。2022年までの募金総額は約2,900万円にのぼっています。

- 社内で高まる
● 盲導犬への関心

同社では毎年協会への募金贈呈式を行なっています。今年参加した社員のみなさんからは「盲導犬が生まれてから亡くなるまでの費用は、募金により成り立っていることを知りました。店頭の募金はとても大切ですね」「店頭の募金箱を見たお子さんが、これ何?と親御さんに尋ねている場面をよく見かけます」「募金贈呈をきっかけに盲導犬のことをさらに学びました。社会貢献につながっていると実感」「実際に盲導犬と歩いて、

(杖よりも)盲導犬と一緒にいるのはとても安心なことと実感しました」など多くの声が届いています。

- やさしい気持ちが
● 育っていくように

贈呈式の際、ドラッグストアモリの森会長からは「盲導犬の姿をした募金箱やシールは、何より子供が興味を持ちます。まず募金箱を見てかわいいと興味を持ち、そういった興味からいろいろなことを知り、やしさが生まれる。会社としてもやりがいを感じます」というコメントがありました。

同社は、地域学校での講演、日本赤十字社と地元自治体の地域献血、九州の自然災害に関する募金など多岐にわたって社会貢献を実施しています。「子供たちの人に寄り添うやさしい気持ちを育てるためにも、盲導犬に支えられている方々のためにも、今後も盲導犬育成に協力させていただきます」。創業時から地域と社会への貢献を続けてきたドラッグストアモリ。その信念は子供たちの心にも引き継がれようとしています。



◀全店舗のレジ横に置かれた募金箱。「盲導犬の姿をした募金箱は、子供たちのやさしい気持ちを引き出してくれます」

みなさんと協会をつなぐ

ハーネスひろば



みなさんから届いたメッセージや
協会からのお知らせなどを
紹介します

昨日 年、仕事帰りにホームに並んで電車を待っていたのですが、列から外れた場所に盲導犬を連れた方がいました。電車が到着してドアが開き、私が着席してからその方が乗車しました。「一緒に並んだら迷惑」と考えて最後に乗られた様子でした。すぐに私から声かけをして立ち上がり、その方に着席してもらったのですが、協会の会員になっていたからできた行動のような気がします。

利用していた駅は人も多いし、盲導犬を連れて歩くのも大変だと思います。身体に障害があつても暮らしやすい世界がもっと広がることを願っています。
神奈川県 MIKEさんより

「…」人でも多くの目の見えない・見えにくい方が、行きたい時に、行きたい場所へ」…そんな思いで、妻は盲導犬ヴォイスと共に、島根県邑智郡邑南町の社会福祉協議会が昨年立ち上げた団体の仲間と、盲導犬の普及活動をしています。

私たちが住んでいる田舎町では盲導犬を見たことのない人が多かったのですが、子供たちを中心にして盲導犬や障害について少しずつ理解が深まってきたと感じています。

行っているこの活動が少しでも実を結び、地域での共生社会が一日も早く実現することを心から願っています。 島根県邑智郡 岩谷武延さんより

編集室より

障害者基本法では「障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加することを促進するため」として、毎年12月3~9日を障害者週間に設定しています。取り組みのひとつとして、内閣府では作文とポスターを毎年募集しています。昨年度は、盲導犬を描いた水出向日葵さんの作品が、中学生のポスターで最優秀賞に選ばれました。

水出さんは「目の不自由な人が駅を歩いているところを見ました。大きな犬を怖がっている人も周りにいました。誰もが障害のある人を理解して優しく接することのできる社会でありたいと思い、描きました」(内閣府ホームページより)とコメントしています。

未来を担う子供たちをはじめ、多くのみなさまに、盲導犬や視覚障害者の存在をより身近に感じ、関心を持ってもらえるよう、私たち協会もさまざまな普及活動に取り組んでいきます。



左は内閣府令和4年度「障害者週間のポスター」中学生区分 最優秀賞受賞作品「自由に動ける社会へ」、右は作者の水出向日葵さん

●『盲導犬くらぶ』の感想やご意見、盲導犬との出会いやエピソードなどを盲導犬くらぶ編集室までぜひお寄せください。1通1通のお便りが私たちの大きな励みとなります。

●あて先
公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267 e-mail: info@moudouken.net

 intage
Know today, Power tomorrow

株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ
<http://www.intage.co.jp/>

 キューモニター募集
<https://www.cue-monitor.jp/>



お客様からご注文いただいた商品1袋につき1円を
いちえん あいきん
『一線のeye基金』として積み立て、
その一部を盲導犬育成支援に活用しています。



あなたから始まる次代への健康物語
わかさ生活